

第1 学年 学年通信「輝石」

令和6年10月7日発行 文責：貞包

中体連選手激励式



○後期スタート

10月になりました。先日、前期期末テストの結果をお渡ししています。今回は9教科ということで、「何から始めてよいのか分からなかった」「家庭学習の時間が足りなかった」という声もありました。計画的に学習を進められるようになるために、10月は英語と社会の朝テストを実施します。繰り返し何度も書いて、テストに臨んでももらいたいです。

今月9日に通知表を渡します。通知表の見方もファイルに綴じていますので、ご家庭でぜひお子さんと一緒に見て、励ましの言葉をお願いします。

○人権作文

1年1組のN Iさんの作品を学年の代表として出品しました。とてもいい内容だったので、その作文を紹介します。

題：障がい者だって同じ人間

僕は、「障がい者」について考えてみた。障がい者はいろいろなことで困っていることもあるだろうと思う。社会の理解がうすく、働いても賃金が低く、自立しづらいこともあるようだ。ほかにも偏見や差別で困っている人もいる。僕も「障がい」について真剣に考えたことがなかったので、これも差別になるのではないかと思った。

僕のおじいちゃんは若いころから元気で、ずっとサッカーをしていた。熊本に住んでいるので、なかなか会えないのが残念だけど、会ったときはサッカーの話をしたり、僕のプレーにアドバイスをくれたりする。そんな中、4年前おじいちゃんの体に異変がおきた。足が動かなくなり、思うように歩けなくなった。連絡を受けた夜、おじいちゃんは救急車で運ばれたので、家族で熊本まで急いで行った。「何があったのか……。」心配でたまらなかった。病院の先生から「肺が悪く、いつ亡くなってもおかしくない状況です。」と説明され、「えっ、あのおじいちゃんが？」という思いで、僕は頭が真っ白になった。

それから、僕のおじいちゃんは障がい者となった。手も足も思うように動かせない。息をするのもつらいようだった。しかし、毎日欠かさず、歩けるようになるためリハビリをしていた。僕は体が動かなくなったおじいちゃんを見て、ショックと何とも言えない思いから、おじいちゃんに会いに行かなくなった。「おじいちゃんを見たらみんなどう思うかな……。」、「またいつ倒れるか……。」とか、とても複雑な気持ちだった。そして、なんとなくおじいちゃんを避けてしまった。

ある日、そんなおじいちゃんが熊本から、車いすで僕のサッカーの試合を見に来てくれた。「あのおじいちゃんが……。」僕はうれしくて胸がいっぱいになった。そして「はっ」とした。かわいそうな気持ちと、他人がおじいちゃんを見たらどう思うかみたいなことばかり考えてしまっていた、自分の気持ちに気がついた。この気持ちが障がい者の人たちへの偏見や差別なんだな、とも思った。

自分とおじいちゃんの関係は、今も何も変わっていない。僕らにとって、大切なおじいちゃんだ。僕がおじいちゃんのことによって分かったことは、障がい者も高齢者も「同じ人間なんだ。」ということだ。このことに気づかせてくれた、今、天国にいるおじいちゃんにとっても感謝している。

○10月の予定

8日 ⑤郷土学習	21日～24日 合唱週間
9日 ⑤通知表渡し（保護者コメントをお願いします）	25日 文化発表会合唱コンクール（弁当持参）
12, 13日 佐賀市中体連新人大会	29日 ④県英語テスト 全学年実施
17日～ 文化発表会制作準備開始	30日 ②テストガイダンス
18日 放課後 漢字検定	31日 新入生保護者説明会